

次なる課題解決に向けて

「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」事務局次長・石川昭政議員に聞く

2015年4月、歯科技工士国家試験の全国統一化、さらに、歯科技工士に係る医療職俸給表（二）初任給基準表および医療職俸給表（二）在級期間表の改正が実現した。日本歯科技工士連盟では今後、歯科技工士教育機関の修業年限の延長を一番の柱に取り組んでいく。この度、国家試験全国統一化等の実現にご尽力いただいた「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」の石川昭政事務局次長のもとを杉岡範明会長と古橋博美代表が訪問し、今後の展望等についてお話を伺った。

現場の声を聞いて、 法律に魂を吹き込む

杉岡会長（以下、杉岡） まずは昨年12月の第47回衆議院議員総選挙でのご当選、誠にありがとうございます。

石川議員（以下、石川） ありがとうございます。

杉岡 そして石川先生には、歯科技工士に関する制度推進議員連盟の事務局次長として、陰になり日向になって一生懸命、我々にご支援いただいていること、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

先生は5月27日～28日に東京で開催された、列国議会同盟（IPU）という国際組織の若手議員会議に日本の代表団として参加されたそうですが、これはどのような会議なのですか。

石川 IPUというのはスイスのジュネーブに本部を置く、主権国家の議会による国際組織で、現在166カ国が加盟しており、毎年2回会議が開催されています。その親会の下に若手議員会議というのがありまして、各国の45歳以下の国会議員が集まる会議なのですが、今回、東京で初めて開催され、私も初めて日本代表団の一員として参加しました。

このときは66カ国、約200人の若手国会議員が集まり、国際平和や繁栄などをテーマに議論しました。どの国も日本と同様、公正な選挙を経て議員に選ばれるわけですが、必ずしも日本のように医療や教育などが整備されていない国も多くあります。それに対して若手議員として、例えばどのようにその国の教育レベルを上げるか、保健衛生を考えていくか、あるいは女性を始めとしたさまざまな人権問題にどう取り組んでいくかということなどを共通テーマにして、意見交換を行いました。

日本ではすでにさまざまな制度が機能していますが、今、少子高齢化という他の国では直面したことのない課題に直面しています。そうしたところについて各国の関心が非常

に高かったように思いました。

杉岡 日本の医療や教育の水準は高いと思いますが、やはり「日本を見習おう」という傾向はあるのですか。

石川 そうですね。会議以外にコーヒーブレイクで立ち話などしているときも、やはり日本がこれまで行ってきた国際貢献に対する敬意と感謝、それから今後の期待というのは、非常に熱いものを感じました。安倍総理が掲げている積極的平和主義もその一環だと思いますので、世界の中で日本がどれだけ多くのことで貢献していくか、責任ある地位を占めていくかということが、これからの日本の取るべき姿勢だと感じました。

IPUの中でも日本は先導的地位にいますので、今後、保健、医療、福祉を含めて、民間の皆さんにもぜひご貢献いただきたいと思っています。

杉岡 45歳以下の若手議員ということですが、参加国の若手議員の割合というのはどれくらいなのですか。

石川 各国とも非常に少ないです。日本は若い議員が多いほうだと思いますが、今後、若い人たちにいかに政治に関与してもらうかが国づくりにとって非常に重要だというのは、日本を含めた各国の共通の認識だと言えると思います。

杉岡 先生は本当に実直で、国民の声をよく聞いて行動されているなど感じています。もともとは自民党本部の職員として勤務されていたので、そこから議員に転身されたわけですが、先生の政治に対するお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

石川 国政に携わろうと思った大きなきっかけは東日本大震災でした。当時は党職員として東京で働いていたわけですが、地元の茨城が被災して大混乱に陥ったとき、当時は自民党が野党だったということもあり、自分の力では何もすることができませんでした。

このままではいけないということで、地元の茨城第5選挙区が空席になって候補者の公募が行われた際、ふるさとに帰って復旧・復興をやりながら国政を目指そうと決意しまし



た。役人がつくる法律というのは、もちろん非常に良いものをつくってくるわけですが、一つ問題なのは、過去との整合性を過度に意識しすぎることです。そこを乗り越えられないのが彼らの限界でもあるのかなと思います。

私は、現場に行って現場の声を直接聞いて、それを法律の中に入れて魂を吹き込むことが立法府の役目だと思っていますので、自民党青年局でもなるべく被災地に行って意見を聞くという活動を継続的に行っています。やはり現場の声を最も重視するというのが私の考えです。

孫の時代に「良かったな」と 思われる国をつくりたい

杉岡 政策に関して先生が強く訴えたいこと、信念に思っているようなことという、どのようなことですか。

石川 戦後から70年、日本が経済大国としてここまで発展して来たのは、やはり自民党がさまざまな形で国づくりを牽引してきたわけです。私は、それは正しかったのではないかと感じています。

しかしこれからは、世界の情勢が変わりますし、国民の意識も変わります。なおかつ少子高齢化、人口減少という、大きなターニングポイントにありますので、やはり20年先を見て今の法律を考えるべきです。

したがって、現在の問題解決をすることもさることながら、少し先、孫の世代にどうなのかということを常に意識しながら発言したり、質問に立ったりするようにしています。一世代飛ばして先の世の中ですね。

今のこの豊かな暮らしが実現したのは、戦争の時代に我々の祖父母の世代が大変な苦勞をして頑張ったからだだと思います。ですから私も、一つ世代を飛んで孫の時代に「良

かったな」と思われる国をつくりたいのです。それが我々若手議員の務めだと思っています。

杉岡 先生は具体的な施策の中で、TPPには慎重であるべきだということもおっしゃっていますが、これについてはどのようなお考えをお持ちですか。

石川 TPP自体が一国では成り立たないシステムですので、当然、外国との交易をどんどん推進すべきだということは前提としてあるのですが、その一方で、やはり守るべきものたくさんあります。それをどのように守るかということを、我々は考えなければなりません。それもせずに、「海外からものが入ってくれば経済合理性で豊かになる」という考え方は、私は少しおかしいのではないかと感じています。

外国との交易・交流を進めながら、我が国の良いものを外国にむしろ売っていく。私はそのような観点で進めていくべきだと思っていますので、決して絶対反対ということではなく、むしろ日本にとってチャンスでもあると考えています。

杉岡 それからもう一つ、とても特徴的だと思ったのは、選択的夫婦別姓制度の導入はどちらかという反対だというお話を聞きました。これも先生の生き方に関係するのでしょうか。

石川 家族制度というのは、今までの国づくりで大変大きな役割を果たしてきたものですし、これからもそうだと思います。しかし今、家族制度が崩壊しかかっているがために、家庭教育やしつけ、道徳などの面で、さまざまな弊害が今の教育現場を直撃しています。家庭教育もしつけも道徳も、すべて学校教育の中でやりなさいということで、学校の先生たちに大変な負担がかかっているわけです。

こうしたことの原因を突き詰めていくと、結果的に原因は夫婦関係にもあるのではない



杉岡 範明 会長



古橋 博美 代表

るし、仕事もあるのだけれども、人が集まらない。今まで雇用していた水産加工場のおばちゃんたちが、家が流されて遠くに避難しているの、事業を拡大したくても人手が足りないそうです。その人たちにどうやって戻ってきてもらうかということに、今一番苦労しているということでした。

杉岡 テレビで映像を見ると、今でも本当に胸に迫るものがあります。

石川 そうですね。まだ当時のまま残っている建物もありますから、何とか早く復興につなげていきたいですね。

ただ、来年で5年目に入りますが、国の集中復興期間が過ぎる5年目以降、どのようにしていくかを考えたとき、やはり「自立」というのが一つのテーマとしてあります。市町村も自立していただく。被災した皆さんにも自立に向けて考えてもらう。そのようにステージが移ってきているという印象を受けましたし、同時に国もそのように促していく必要があると思います。

今後の課題についてもスピーディに取り組んでいきたい

杉岡 先生には、歯科技工士に関する制度推進議員連盟で事務局次長を務めていただいておりますが、念願でありました国家試験の全国統一化と人事院の俸給表の改正が実現しました。本当にありがとうございます。

石川 おめでとうございます。

杉岡 この間、議員連盟の総会で、今後の議員連盟の活動についてお話させていただきました。一番の柱に考えているのは歯科技工士教育機関の修業年限の延長ということ。それから歯科技工所の実態把握がまだきちんとしていないので、その施策にも力を入れていきたいと考えています。そして最終的には経済問題の解決へと進めたいと思っています。

この修業年限の延長というのはもっとも大きな直近の課題ですが、なかなか前に進みません。今後、この問題についてどのように先生方と協議を進めていこうかと考えているのですが、まずは日本歯科医師会と全国歯科技工士教育協議会、そして日本歯科技工士会の三者で要望書をつくって厚生労働省に提出するところから始めていこうと思っています。

古橋代表(以下、古橋) 私は今でも鮮明に記憶していますが、初年度の議員連盟のテーマを決める際、あれはたしか党本部で会議を行ったのだと思います。今回実現した統一試験の問題と人事院の俸給表の問題に関する要望書をその場で先生につくっていただきましたよね。

その足で厚生労働省へ行って要望書を出し、午後は上川陽子会長と一緒に政府側に要望書を出した。先生に非常にスピーディに対応していただいたおかげで、35年も実現

しなかったものが2年で実現できました。

今後の課題についても、またよく先生にご相談しながら丁寧に進めていかなければいけないと思っていますので、よろしくお願いたします。

石川 私が歯科技工士会の皆さんとお付き合いが始まったのは、中西茂昭さんの2回の参議院選挙での関わりでした。私も当時、さまざまな団体の候補者をケアしていましたが、その中で特に熱心に取り組んでいらしたのが歯科技工士会さんでした。

結果としては9万2000票で残念ながら涙を飲んだわけですが、その当時から、私としても当選を果たしていただきたかったなという思いをずっと持っていましたし、自分自身の力不足も感じていました。

皆さんの意見を何とか政治の場で実現する方法があればと思っていたところ、図らずも私も国会議員になり、そして歯科技工士会さんからお声を掛けていただいて議員連盟の事務局次長をやらせていただくこととなったわけです。

物事を動かすには、やはりタイミングも大事だと思いますし、こういった問題はどこを動かせば前進するかということも、私たち議員がしっかり見定めていかなければいけないと思っています。正攻法だけではなく、さまざまな方の協力も得なければなりませんので、そのところはまた皆さん方と意見交換をしながら、スピーディにやっていきたいと思っています。

杉岡 ありがとうございます。先生には以前、歯科技工所を訪問していただいて歯科技工士の実状をご覧いただきましたが、どのような感想をお持ちになりましたか。

石川 やはり、最新の機器を導入するなどして大規模にやられている歯科技工所と、数人でやられている歯科技工所との間に、かなりの差があるなという印象を持ちました。小さければ小さいほど1人の歯科技工士さんにかかる負担は大きくなるわけですよね。そのような状態ではいつか心が折れてしまっ、て、せっかくの技術を生かすことができないと思いますから、非常に難しい状況にあるという印象を受けました。そうした労働環境を少しでも良くするために、我々も微力ですが取り組んでいきたいと思っています。

それから、いわゆる海外委託の問題については、安ければいいという歯科医師側の認識も大きな問題だと思いますので、しっかりとした物を使ってもらえるような何らかの仕組みを構築する必要があると思っています。

古橋 単に安いところに委託するというのは、国民に対しての背信行為とも言えます。この問題については我々もかなり取り組んできたつもりですが、今後はもう少し制度的に整備しなければいけないと思っています。

石川 保険診療と自由診療があると思いますが、少なくとも保険に関して言えば、海外に委託するというようなことがあるとすれば、それは、大きく言えば、国民が払った保険料が海外の業者に流出しているということにも



石川 昭政 議員

衆議院議員（当選2回）

昭和47年9月18日生まれ。日立市出身
国学院大学大学院文学研究科修了

【現職】

- 衆議院環境委員会委員
- 衆議院東日本大震災復興特別委員会委員
- 衆議院経済産業委員会委員
- 衆議院原子力問題調査特別委員会委員
- 自民党外交部会副会長
- 自民党環境部会副会長
- 自民党環境関係団体委員会副委員長
- 自民党青年局・新聞出版局次長
- 自民党国会対策委員会委員

なると思うのです。果たしてそれでいいのかという疑問があります。

薬は海外から買っている部分がありますが、それは国内で生産できない物があるから海外から買ってくるわけです。国内で調達できるものを、経済原理で安いからといって海外から買っているということ自体、国民皆保険の理念に照らしてどうなのかなと思いますね。

古橋 あくまで自由診療だと言いながらも、先生がおっしゃるようなことがあるのではないかと話もありますから、そこはしっかりとした制度を構築しなければなりません。

さらには、その補綴物がどこでつくられたのか患者さんの側から検証できる制度も必要ですから、そのために現在、歯科技工所の実態把握に取り組んでいるところです。

石川 そうですね。まずは実態をよく把握する必要があるでしょう。技工料金についても、需要と供給のバランスを考えてみると、著しく供給が多い場合には値段が下がるとは思いますが、今の状況はそうでなくて、需要のほうがたくさんあって供給する側である歯科技工士の数がほぼ一定なわけですね。そのような状況であれば、おのずと料金は上がっていくはずだと思うのですが、そうっていない。これは本来あるべき姿ではないなという印象を受けました。そのあたりがポイントではないかと思っています。

杉岡 今おっしゃっていただきましたようにいろいろな課題がありますが、我々も希望を持っていますので、一步一步前進して、同時に我々自身も襟を正してやるべきことをきちんとやっていかなければいけないと思っています。先生には今後ともぜひご支援いただきますようによろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

石川 こちらこそよろしくお願いたします。ありがとうございました。

かと思っています。したがって、あえて姓を別々にする必要はないだろうと私は考えています。

杉岡 先ほどのお話にありましたが、先生はこれまで東日本大震災の被災地に何度も足を運ばれて、石巻市には三度も行かれたと伺いました。震災直後には炊き出しにも行かれたそうですけれども、南三陸町と石巻市を最近また訪れて、状況はいかがですか。

石川 私が最初に石巻に入ったのは、地震が発生した3カ月後の6月で、まだ周囲にへドロの匂いがあるような状況でした。その後何度か足を運び、2カ月ほど前にも同じ場所に行ってきたのですが、インフラの整備はかなり進んできたという印象を受けました。

特に驚いたのは、石巻に魚市場があるのですが、幅1km近くもある非常に大きな荷さばき場が出来上がりまして、そこで魚を揚げているのです。しっかりきれいになっていました。現地の社長さんに聞くと、おそらく日本一、もしかすると東洋一ではないかということですが、これは要するに復旧後にとどまらず、その先の創造的なものにつながっている一つの事例だと言えると思います。

その一方で、多くの犠牲者が出た南三陸町で町長さんと若手の経営者の皆さんと意見交換をしたのですが、防災庁舎を保存すべきかどうかということに非常に迷っていらっやいました。女性職員さんが最後までアナウンスして亡くなられた、あの庁舎です。結果としては、県が代わりに20年間保存して、その間に決めようということになったようです。

いずれにしても、いまだ震災から立ち直ることができない地元の方々がいる一方で、やはり生活、生業の再建は待たないです。特に若い人たちが協力し合って、単独では難しい問題も他の方と協力し合って取り組んでいこうという熱意を非常に感じました。

ただ、彼らが言っていたのは、やる気はあ